2018年11月23日 中日新聞 朝刊二社 32頁

名古屋大 必須とせず

20年度入試 英語民間試験

名古屋大は二十二日、二〇二〇年度に始まる「大学入学共通テスト」で導入される英語の民間検定試験について、受験生の成績提出を必須としない方針を発表した。

民間試験の成績は出願要件の確認手段として活用はするが、高校の調査書などでも代用できるようにする。共通テストでの点数加算や合否の判定には用いない。東京大も同様の方針を決めている。

方針によると、一般入試の全志願者に、国際標準規格「CEFR（セファール）」で、六段階のうち下から二番目の「A2」（英検なら準二級～二級相当）以上に相当する語学力を求める。民間試験の成績、高校の調査書など、いずれかで確認する。調査書の記載内容の詳細や、民間試験の推薦入試での扱いは来年一月に公表する。

民間試験を必須としない理由について、入試担当の木俣元一副学長は、民間試験に登場するビジネス英語と高校の学習内容との違いや、複数の検定試験の成績を比べる際の整合性、経済や地域格差による受験機会の差などを挙げた。

大学入試センター試験に代わる共通テストは、現在の高校一年生から対象。名古屋工業大や愛知教育大は、民間試験の成績を共通テストの得点に加算する方針を表明している。

（安福晋一郎）

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています